

第 46 回日本臨床神経生理学会

医療法人水明会佐潟荘 医局

10月27日(木)、第46回日本臨床神経生理学会(場所:ホテルハマツ福島県郡山市、会長:福島県立医大医学部神経内科学講座 宇川義一教授、副会長:同大同学部神経精神医学講座 矢部博興教授)に、当院の北村医師が初日だけ参加しました。臨床神経生理学は、英語では Clinical Neurophysiology と言い、欧米では独立した部門として臨床にコミットしています。主に電気(磁気)生理学的手法を、精神神経・筋疾患に対して臨床応用する専門領域で、神経内科、脳外科、小児科、そして精神科など多領域にわたるドクターや、臨床検査技師を中心とするメディカルスタッフが関係しています。印象に残った講演の一つは、やはり宇川先生の会長講演「磁気刺激の過去・現在・未来」でした。磁気刺激法の開発から、基礎研究・臨床応用まで、多くの貢献者たちとの具体的エピソードを交えた展望は、大変興味深いものでした。また、University College London (UCL)の Institute of Neurology から、高名な John C. Rothwell 教授が来られていました。私ごとですが、ずいぶん昔にこの界限(Queen Square)の別の研究部門に留学していた時に、磁気刺激実験の被験者になったことを懐かしく思い出しました。精神科臨床との関わりでは、磁気刺激によるうつ病治療に関する話題、特に磁気刺激治療前後の LORETA による脳領域間の機能的結合性の評価などが、たいへん興味深かったです。